

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

治燥剂 滋陰潤燥剂 1

よういんせいはいとう 養陰清肺湯	養陰清肺・解毒	生地黄 9g・麦門冬 6g・生甘草 2g・玄参 6g・貝母 6g・牡丹皮 3g・薄荷 2g・炒白芍 3g 水煎し服用する。
---------------------	---------	------------------------------------------------------------------

重楼玉鑰

<主治>

白喉 (ジフテリア)

咽喉の腫脹疼痛、咽頭部に腐苔状の白斑 (偽膜) が生じて拭っても取れない、鼻腔や口唇の乾燥、呼吸時の音声、発熱、脈が数などを呈す。

<病機>

陰虚蘊熱のものが疫毒を感受し、熱毒が咽喉部を燻蒸した病態である。

喉は肺系に属し、腎脈は咽を挟み舌本に連なり、肺腎陰虚で蘊熱のあるものが疫毒を感受すると、津液が灼傷され熱毒も盛んになって上を燻蒸するために、咽喉が腫脹して疼痛を伴い、甚だしいと咽喉が狭窄して呼吸不利になり、呼吸困難や呼吸時の喘鳴、あるいは嗄声を呈する。熱毒が燻蒸して咽喉を腐爛するために、腐苔状の白斑が生じ粘着して剥離しがたい。発熱、脈が数は、熱盛を示す。

<方意>

肺腎陰虚の熱毒であるから、養陰清肺、解毒すべきである。

滋腎清熱の生地黄、清熱潤肺の麦門冬、滋腎潤肺、清熱解毒、利咽散結の玄参が主薬で、肺腎を清潤し熱毒を清解する。白芍は斂陰し、牡丹皮は涼血消腫に働く。貝母は潤肺化痰、清肺止咳に働き、薄荷は宣肺利咽し、生甘草は清熱解毒、和薬する。いずれも補助薬である。全体で滋養肺腎、清熱解毒、消腫利咽の効能が得られる。

<参考>

本方 (養陰清肺湯) は白喉 (ジフテリア) に対する代表方剂である。

加減法

初期の表証には、輕揚宣散の桑葉・葛根などを加える。

熱毒がつよければ、清熱解毒の金銀花・連翹などを加える。